

平成29年4月26日

第1回学校運営協議会

【学校運営協議委員】

委員	近藤	力	事務局長	田苗	隆男
委員	廣瀬	雅一	事務局員	與田	顕規
委員	橋本	祐一	事務局員	小嶋	隆
委員	竹内	功	事務局員	吉川	英昭
委員	笹原	史裕			

1 委員の委嘱

2 事務局挨拶

生徒数の現状について、本年度入学生、男子37名、女子17名 計54名が入学しました。3学年で総計182名でスタートしました。入学者の内訳は、入学者合計54名中、町外より28名が入学してくれました。教育課程の充実が考慮され、教員の配置も充足しております。昨年、海外情勢等の諸事情により、海外見学旅行が国内見学旅行になりました。

3 学校運営協議委員自己紹介

4 委員長を選出

委員長より挨拶

一言ご挨拶申し上げます。運営していく中で、色々なことがあると思いますが、是非忌憚のない意見交換のできる委員会にしていきたいと思います。また、この運営協議会がいろいろな壁を取り払って意見の交換できる場所となりますように、よろしくお願いします。

5 協議

ア 学校概況および学校運営協議会について（事務局より）

【新入学生の概況】

一学年は男子37名 女子17名 計54名が入学いたしました。宿泊研修に帯同し様子を見ましたが、明るく、課題に対して真摯に取り組む生徒達であると感じました。感心したのは、時間とマナーに対しての意識の高さです。

【進路の概況】

三学年の進路希望調査を見ておりますと、年々四年制大学への進学希望者が増えております。学校一丸となって進路の実現をサポートしていきたいところです。

【学習状況概況】

進路の実現へ向けて、教育課程や授業内容の修正、改善にも取り組んでおります。具体的なところで申し上げますと、習熟度別授業の上位のクラスを細分化し、より進路実現へ向けた課題を明確にし、伸ばしていくことを考えております。

【今年度の柱】

「進路実現」と「生徒募集」の二本柱を中心に学校教育活動を進めていきたいと思っております。進路の実現として、キャリア教育や学習環境の整備等、様々な取り組みが少しずつ形になってきている実感はありますが、生徒も教員も、更なる「進路意識」の向上を目指していきたいと考えております。また生徒募集に関しましては、近隣の中学生在が、本校に関心を持ち、入学してきてもらえるような取り組みを実践し、効果的に紹介していきたいと考えております。

イ 平成29年度学校経営ビジョンについて（事務局より）

昨年度は「チーム知内」をスローガンに、チームとしてまとめ、補い合っていくことを発信して参りました。今年度は「知内プライド」と称しまして、住む町、学校に、目に見えないとしてもそれぞれにプライドを持つという風に話しております。学校経営ビジョンの内容としましては、全体的に焦点化、スリム化をし、課題を明確にいたしました。特に学校教育力向上の部分には一層の力点を置いていきたいと思っております。また、今後の世の中の流れを鑑みて、知内高校の将来を考えていくという意味では、学力の向上の部分も重要であると認識しております。これらを網羅しつつ、知内高校の十年後二十年後を具体的に見通して考えていく「将来像検討委員会」を設置しました。現在もう始まっていますが、数年後の児童数激減を考え、知内高校のブランド化を推進して参ります。また知内プライドの具体的な指針としまして、知内町民からの信頼獲得をあげております。地元知内中学校からの入学生を七割以上にしたいと考えております。学校経営の基本姿勢としましては、「本当に生徒のためになっているか」を念頭に教育活動にあたって参ります。

ウ 今後の活動について（事務局より）

町内の小中高合同開催による「スマホメディアルール」の披露、宣言、確認が行われました。一同に介しての確認に意義があったのかと感じています。

先ほど校長先生から話されました、将来像検討委員会も進んでおります。大きな柱として ①「社会人講話～ソクラテスマーティング」②「教育課程の刷新」の2点を現在考察、推進しているところです。

①「社会人講話～ソクラテスマーティング」は1学年の生徒に、町の財産ともいえます、社会人や職業人の方々に講話をいただきます。少人数のブースに分けて生の声を真っ直ぐに聞くという体験を通じて、生徒の進路意識の向上につながることを期待しております。

②「教育課程の刷新」につきましては、コース制のみでは対応しきれない生徒

の進路実現の部分で教科やコースを横断して学習させていきたいと考えております。また多様な進路に対応するために、個別の進路相談の機会を増やしたり、進路室を解放し、生徒が気軽に進路のことを調べられ、相談のできる空間作りに着手しています。また、キャリア教育を含めた、総合学習の中で、授業のみでは解決していかない将来についての不安等を解消していければと考えております。

【質疑】 委 員

様々なニーズや進路の多様化に対して、対応していこうという学校の姿勢は理解できましたが、教員がそれぞれに対応していけるのか……。大変な作業であるように感じるが……。

【応答】 事務局員

教員の資質向上が取り組みとの差にならぬようにしているところです。校内研修をタイムリーに実施し、具体的な取り組みになるようにしていきます。また、校内だけにとどまらず、外（学校訪問、説明会、懇談会、研修）に出て行ける環境を作り、外から吸収してもらう体制を作っております。

【質疑】 委 員

教育課程編成上、様々なニーズや進路の多様化に対して、いわゆる「教科・科目」を入れていくことが可能なのか。

【応答】 事務局員

可能にしていくために、ただ「科目」を置くことはせず、検定等の目標を持たせられるように現在考えております。生徒が将来を考えられるような「科目」の配置や設定を行っていきたいと思っております。高大連携や出前授業、検定の情報を得る等外部との連携も重要になってきています。

【質疑】 事務局員

教育課程編成上の不具合とは具体的には何か。まだ教科や科目の設定が空白であるところはあるか。

【対応】 事務局員

コース制の範囲のみでは対応していけないところをコースの壁を越えた選択ができるようにしようかと考えています。

【応答】 事務局員

すでに改善案等を作成しています。各教科の先生方に十分に議論していただき、教育課程検討委員会で議論しております。様々な意見が多角的に出され、建設的に進んでおります。

習熟度別授業につきましては、より細分化していきたいと思っております。今まで、進路意識の高い生徒を放課後等に補習していたところを、授業内でもということまで習熟度別授業での生徒を細分化していきたいと考えております。各習熟度でのサポートの拡充も考えております。

英語教育の推進、検定獲得の進路への有用性も考え、実用英語技能検定やその他の検定等への取り組みも強化して参ります。

【補足】事務局員

実用英語技能検定の取得につきましては、町の小中高での取り組みとなっております。現在の中学校3年生が大学入試の際に大きく入試制度が変わります。教育界は今、世の中の流れやニーズに伴い、大学入試制度の変革が行われるという中、学習指導要領が大きく変わっていく状態です。そういった中で検定取得が大学入試への大きなアドバンテージになる可能性があります。

【補足】事務局

英語教育推進協議会でも、実用英語能力検定などの取得については話し合われています。町より、予算も十分に組み込まれているので活用していきたいと思います。今年度は高校に事務局がきますのでしっかりと取り組んでいきたいと思います。

【質疑】事務局員

教育課程編成上、まだ教科や科目の設定が空白であるところはあるか。

【応答】事務局員

すでに改善しています。習熟度別授業の内容については、さらにクラスを細分化していく予定です。具体的には、習熟度を細分化し、放課後等で補っていた難易度の高い学習内容に授業内でも取り組ませようとしています。

【補足】事務局員

実用英語技能検定などの補足としましては、現在の中学校3年生の大学入試から、入試の制度が変わる予定です。そういった中で、検定取得の価値が見直されております。

【補足】事務局員

今年度、町の英語教育推進協議会の事務局を高校で担うことになりました。その中で、実用英語技能検定へ向けての計画を立案しております。町から実用英語技能検定に対する予算を組んでいただいておりますので計画的に推進していきたいと思います。

【質疑】委員

教員の配置数と教育の質についてです。知内高校は教員数が多く、教育の質も向上しつつありますが、進路指導において、大学入試の際に上手くいかないのは、資格が取れる、取れないではなく、科目の単位の取得の関係で、その大学を受験することができないことがある時です。また、進路指導において、重要となるのは経済面でもあると思います。早いうちに生徒と保護者が進路意識を持ち、科目の選択や奨学金について積極的に関わる必要があると感じています。

経済面のトラブルとしては、生徒は受験したく、先生も勉強をさせる・・・しかし、保護者の経済的な面での心配が残るというケースがあげられます。

【応答】事務局員

進路指導部を中心にガイダンスを早めにしっかりと実施していきたいと思います。

【質疑】委員

現在の中学校3年生の大学の入試制度が変わるということですが、そのあたりは中学校では生徒や先生方には伝わっておりますでしょうか。

【応答】委 員

実情という、まだぼんやりとしたイメージでしかありません。詳細を正確に理解はしておりません。一昔前とは違い、生徒と教員と共に保護者も学習していなくてはならないと感じています。

【質疑】委 員

高校では、学習に対しての強化として、7時間授業は実施していませんか。

【応答】事務局員

実施しておりません。本校は行事や部活動にも全力で取り組ませておりますので放課後の時間は確保しております。また、集団のインフルエンザ罹患等が発生した場合は、補填として7時間授業を実施しております。

【補足】事務局員

こういった高校の実情や重点を知内中学校の説明会等で補ってあげればと感じております。現在中学生の声を聞こうということで、アンケートを作成し実施しようとしております。また、保護者向けのアンケートも実施予定です。こういった声を聞いてから、本当に知りたい情報と、伝えたい情報を整理して説明会に臨みたいと思います。

【補足】事務局員

木古内中学校・松前中学校・福島中学校にも実施できると効果的であると思います。

【補足】事務局員

本校を選んでくれるにはどのようにすればよいか。学力への対応を含め熟考して参りたいと思います。

【補足】委 員

現在、大学側も生徒募集には力を入れていると思います。出前授業等をしていただいたり、説明会等にも来校していただけるような取り組みが大切かと思えます。今後の進学や就職に向けての連携やつながりの強化のためにも、現在の知内高校の先生方の取り組みは頼もしく嬉しい限りです。

【補足】事務局員

5月の15日の5・6時間目に中学校に説明会に伺いますのでよろしくお願ひします。

【補足】事務局員

保護者向けにも実施していきたいと思えます。入学後にかかる費用等の話は、聞いておいて良かったという声を良く聞きます。

【補足】委 員

ご兄弟がいらっしゃる場合には、上の子で聞いているからといって改めて説明会に参加されない方もいますが、今の教育界の流れからいっても、改めて参加していただければ良いですね。そういった方向性は中学校でも促していきたいと思えます。

【補足】事務局員

保護者説明会の参加増加等、どうすれば情報が浸透してくのかを考え、PRの

方法を活性化させていきたいと考えております。保護者の疑問に答えつつ、関心を引き寄せるにはどのようにしていけばよいか、皆様からもアイデア等があれば今後よろしくお願ひします。昨年の説明会への参加実績は8人でした。

【補足】事務局員

保護者の遠方の方々や利便性を考えて、情報についてはHP上に開示し、更新を随時しております。カウンター数を見ておりますと増えている現状です。しかしながら、地元や地域の方々へのPRはいろいろな方法を考えていかななくてはならないと感じております。

また、町の広報等を利用し、いろいろな角度から発案されるアイデアも生かしていきたいと感じております。

【質疑】委員

保護者の気にすることとは何なのでしょう。

【補足】委員

大学に進学すると、家が一軒建つとまでいわれるほど、経済的な面は特に気にしていると思います。

高校進学においては、町から函館市内の高校に通うと朝早くで大変な思いをされるようですが、なぜ函館市内の高校に進学するのかという明確な理由はないように感じます。部活動をしている生徒は寝ればすぐ朝という生活のようです。

先ほどの教育改革の大学入試が変わるといふお話は保護者は興味を持つのかは定かではありませんが、なぜ入試の内容が変わるのかは興味があるのかと思います。

【応答】事務局員

従来のセンター試験はマークシートであり、マークシートでは学生の評価に限界があり、学力をはかれないという見解です。記述式の問題もでてくるようです。また2次検査ではプレゼン能力を観ようともしています。現在、この入試改革で、あせって対策を講じているのは、塾や予備校です。学校に置き換えますと、カリキュラムマネジメントと授業の質の向上といえるかと思ひます。対外的には、高校として世の中の流れとリンクしていくことと、紹介の仕方が肝になると思ひます。

【補足】委員

相当変わりますね。色々。

【補足】委員

境目となる、現在の高校1年生が大変ですね。

【補足】事務局員

大学入試のセンター試験でできるだけ浪人生を出さないようにしていく意味でもあるようです。2次試験で多様な選択ができるように。

【補足】委員

大学側も大変な状態ですね。

【補足】事務局員

道内の大学の動きは全国に比べて少し鈍く感じています。

【補足】事務局員

道内の大学も、必要とする学生像をはっきりとさせられれば良いのですが、出遅れている感じがあります。

【補足】事務局員

いずれ、大学側も、必要とする学生像の限定をしていき、とりたい学生をとるのではないかと思います。留学生にも可能性が大きく広がっていきます。取得単位も限定してきておりますし。

【補足】委員

良い学生をとりたいのは大学側の願いでもあります。留学生もその範疇に入れていくということですね。

【補足】委員

高等学校側の生徒の募集についても色々と課題がありますね。児童生徒数の減少と生徒募集について、現在の小学校3・4年生が中学校3年生になったときに大変になるということですが、現在の中学校3年生の150人、小学校3年生が中学校3年生になったときに100人という現状です。

【補足】委員

現在、様々なニーズに対応していこうという教育課程を作成していただいておりますが、このカリキュラムの本質を保護者に伝える、または保護者が理解する必要性がありますね。

【補足】委員

大変だけれど、これなら良いというものを作っていただき、PR方法を考えていきましょう。

【補足】事務局員

同時に、部活動で育てる力も大切にしていきたいと思っております。
5月16日から高体連がはじまります。新入生の中にも、遠方から部活動と学業の両立を目指して、本校にきてくれている生徒がいます。新幹線通学の高跳び種目の生徒、バレーボールは昨期ベスト8なのでさらに上を目指しています。バスケットボール部も気合いはいいっており、今年度は力があると聞いております。サッカー部も新体制になり、変革が起きています。吹奏楽部は日々の練習に熱が入っております。バドミントン部もチーム、シングル、ダブルスと出場できる人数で活動しております。また5月13日より野球部は春季大会に入ります。今年度は50名を超える人数で臨みます。本校の部活動全て文武両道で頑張っておりますので応援していただければなと思っております。

エ 社会人講話（ソクラテスミーティング）について

【補足】事務局員

講師はまだ確定しておりませんが、実施要項等はできております。今後は講師との打ち合わせ等をしていきたいと考えております。

オ その他

特になし

【挨拶】委員長

今回は皆様、ありがとうございます。教育事情に精通している方々がいてくださると教育事情の過去、現在、未来の情報がわかるので良かったです。

今後もこの協議会は、諸問題や課題に対して、柔軟に、ざっくばらんに行きたいと考えております。立場や上や下も関係なく打開策、良策をどんどん出していきましょう。この協議会の中だけでは、正解か不正解は明確になりません。アイデアを出して実行していく中で議論できればと思います。1年間よろしくをお願いします。